

高知県感染症発生動向調査（週報）

2016年 第38週（9月19日～9月25日）

蚊やマダニに刺咬されないように注意しましょう！

屋外では長袖・長ズボンを着用するなど
肌の露出をできるだけ少なくしましょう。



★お知らせ

○咽頭結膜熱（プール熱）に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第37週の1.93から第38週は0.70と急減していますが、幡多で増加し、高知市では3週連続、須崎では2週連続で注意報値を超えています。

咽頭結膜熱は、主に夏期に流行し、プールでの感染があることから「プール熱」とも呼ばれます。

主な症状は、発熱・咽頭炎・結膜炎で、その他に、リンパ節の腫れ、腹痛、下痢などが生じることもあります。

感染力は非常に強く、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスによって感染、あるいは、ウイルスが付着した手やタオルなどの患者が触れたものを介して感染します。

予防対策は手洗い、うがいの励行です。

また、プールでは眼の結膜からの感染も考えられていますので、プールを利用する際は、前後のシャワーを必ず浴び、タオルを他人と共用しないようにし、流水と石けんによる手洗い、うがいをしましょう。

○伝染性紅斑（リンゴ病）に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第37週の0.20から第38週では0.43と急増しています。安芸、高知市、須崎、中央東で増加し、安芸では注意報値を超えています。

伝染性紅斑は別称「リンゴ病」と呼ばれ、頬がリンゴのように赤くなります。10日から20日の潜伏期間があり、その後、両頬に鮮明な紅い発疹が現れ、体や手足に網目状の発疹が広がります。通常1週間程度でそれらは消失します。多くの場合、頬に発疹が出現する7～10日前に、微熱や風邪のような症状がみられ、この時期にウイルスの排出が最も多くなります。発疹が現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失します。

妊娠中（特に妊娠初期）に感染した場合、まれに胎児の異常（胎児水腫）や流産が生じることがあるので注意が必要です。伝染性紅斑は、飛沫感染や接触感染をします。予防は手洗い、咳エチケットです。

○百日咳に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第37週の0.13から第38週では0.07と減少していますが、須崎では増加して注意報値を超え、中央西でも3週連続で注意報値を超えています。

また、定点医療機関からのホット情報では須崎から百日咳2例（37週検出）が報告されています。

病原体検出情報では *Bordetella pertussis* が4例報告されています。

百日咳は、感染力が強く、軽症でも菌の排出があるため、注意が必要です。

特に生後6ヶ月未満の乳児では無呼吸発作等、重篤になる場合もあるので、予防接種をしていない新生児、乳児がいる場合は特に感染に対する注意が必要です。

予防対策は予防接種、うがい、手洗い、咳エチケットです。

感染予防のためにワクチン接種をお勧めします。ワクチンは生後3ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

○マイコプラズマ肺炎に気を付けて！

基幹定点からは6例の報告があり、定点医療機関からのホット情報では17例の報告があるなど、引き続き報告数の多い状態が続いていることから、注意が必要です。

病原体検出情報では *Mycoplasma pneumoniae* が1例報告されています。

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマによって起こる呼吸器感染症で、幼児期から学童期によく見られます。頑固な咳嗽と発熱を主症状に発病し、中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などの合併症を生じることがあります。

感染経路は主に飛まつ感染や接触感染です。保育園や幼稚園、学校、あるいは家庭内等での濃厚な接触で感染します。患者の感染力は発症から10日前後（症状持続の例でも6週間程度）で消失しますが、この間は濃厚な接触は避けるようにしましょう。

予防対策は手洗い、うがい、咳エチケットを励行しましょう。

☆マダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS）に注意！

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の報告が1例ありました。

日本紅斑熱やSFTS（重症熱性血小板減少症候群）はマダニが媒介する感染症です。

すべてのマダニが病原体を持っているわけではありませんが、ダニに咬まれないようにすることが感染の予防になります。予防するためのワクチン等はありません。まだ、マダニが活発に活動する時期です。引き続き、注意が必要です。

野山や畑、草むらなどに出かけるときは十分注意しましょう。

長袖・長ズボンを着用し、シャツの裾はズボンの中に入れ、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる等、肌の露出を少なくし、マダニ用の忌避剤を使用する等して、マダニに咬まれないようにしましょう。吸血中のマダニを見つけたら、無理に引き抜こうとせず、医療機関を受診し処置してもらいましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～2週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。また受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

●高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

●高知県衛生研究所 マダニによる感染症の注意喚起パンフレットを作成しました。

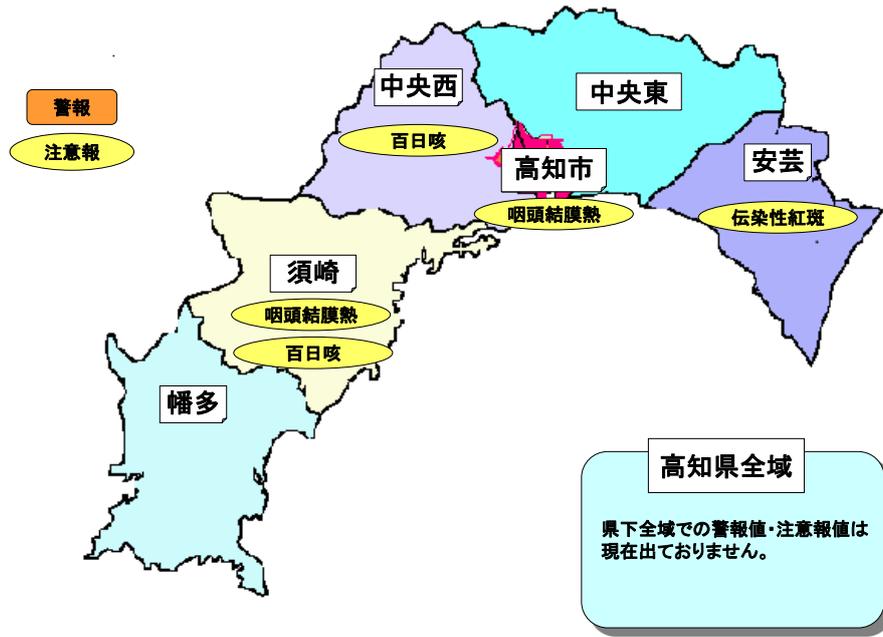
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2016061300063.html>

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ：急増 ：増加 ：横ばい ：減少 ：急減
38週（9月19日～9月25日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎		2.43	高知市、安芸で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.73	高知市、中央西、幡多で増加しています。
咽頭結膜熱		0.70	幡多で増加し、須崎、高知市で注意報値を超えています。
RSウイルス感染症		0.57	安芸、高知市、須崎で増加しています。
流行性耳下腺炎		0.53	高知市で増加しています。

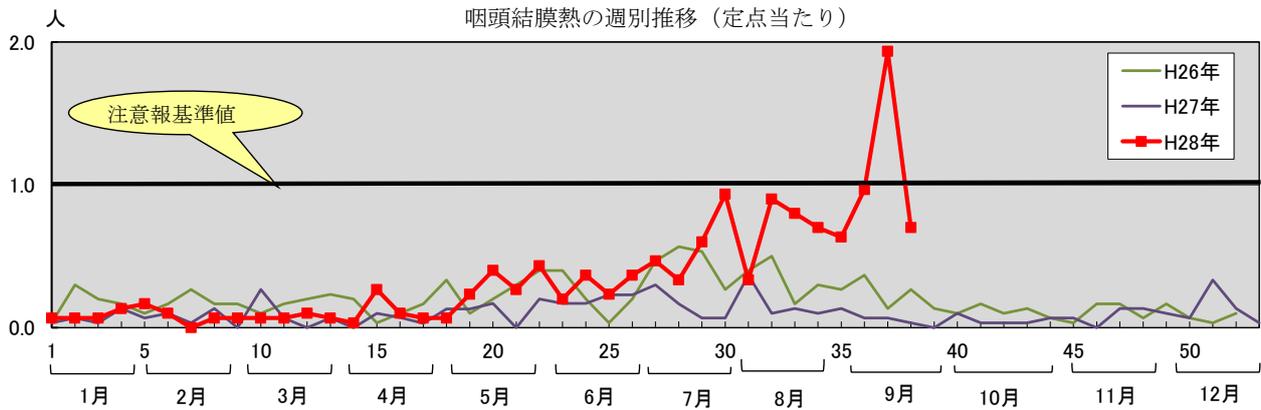
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

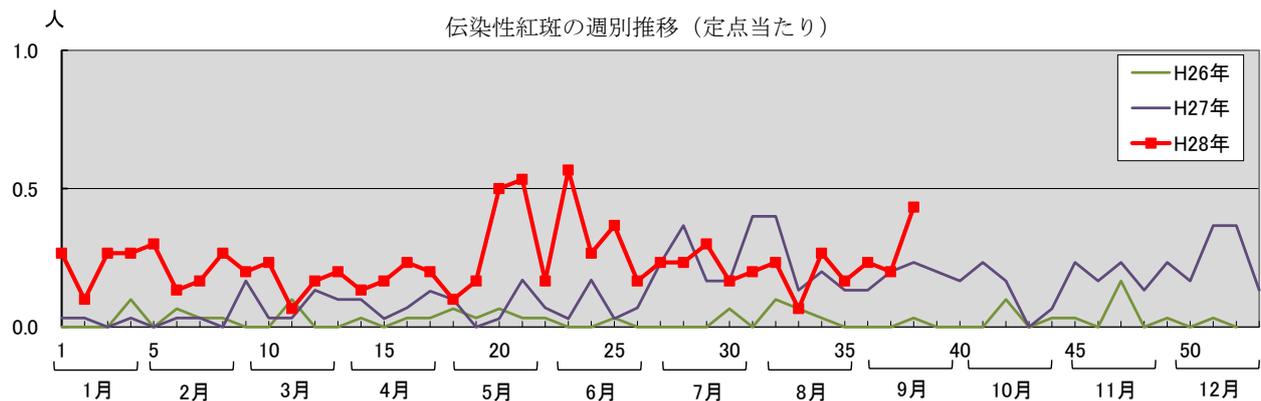
○咽頭結膜熱 第38週： **0.70** (注意報値：1.00 警報値：3.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり0.70(前週：1.93)と急減していますが、幡多0.40(前週：0.20)で増加し、須崎1.50(前週：1.50)、高知市1.27(前週：2.64)では注意報値を超えています。



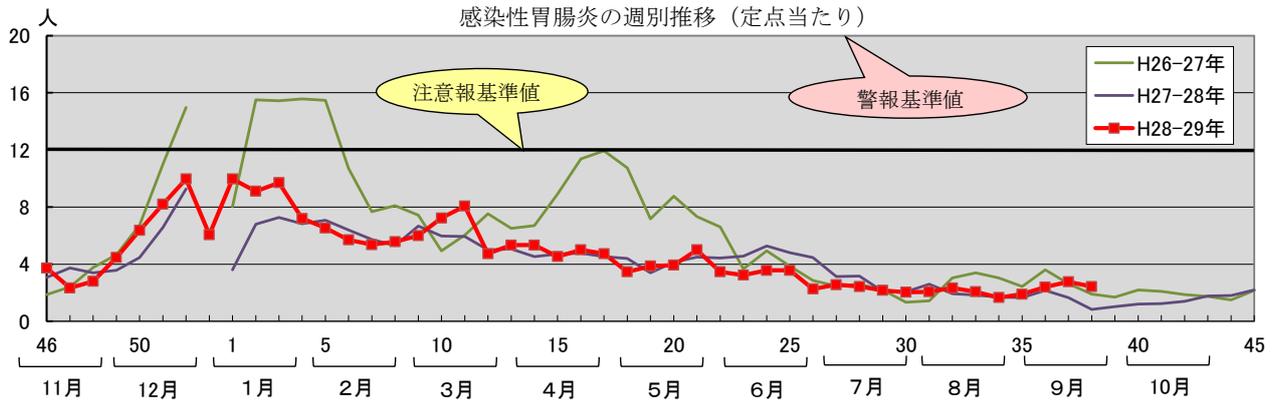
○伝染性紅斑 第38週： **0.43** (注意報値：1.00 警報値：2.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり0.43(前週:0.20)と急増しています。安芸1.50(前週:0.00)、高知市0.73(前週:0.27)、須崎0.50(前週:0.00)、中央東0.14(前週:0.00)で増加し、安芸では注意報値を超えています。



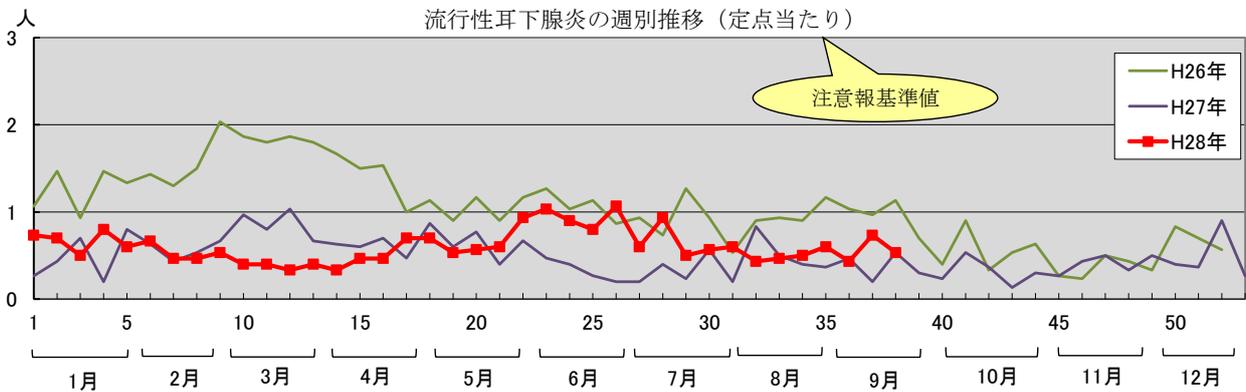
○**感染性胃腸炎 第38週： 2.43** (注意報値：12.00 警報値：20.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 2.43 (前週：2.77) とほぼ横ばいですが、高知市 3.91 (前週：3.09)、安芸 3.00 (前週：1.50) で増加しています。



○**流行性耳下腺炎 第38週： 0.53** (注意報値：3.00 警報値：6.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 0.53 (前週：0.73) と減少していますが、高知市 0.64 (前週：0.27) で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。

そのため、H25-H26年とH26-H27年のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★**病原体検出情報**

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
38	百日咳	10	男	高知市	<i>Bordetella pertussis</i>
38	百日咳	1	男	須崎	<i>Bordetella pertussis</i>
38	百日咳	7	男	須崎	<i>Bordetella pertussis</i>
38	百日咳	5	女	須崎	<i>Bordetella pertussis</i> <i>Mycoplasma pneumoniae</i>

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
37	突発性発しん	1	男	中央東	Human herpes virus 6
37	不明発疹症	3	男	須崎	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7

★全数把握感染症

第 38 週

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	95	80歳代男	高知市
		1	96	60歳代男	
3類	腸管出血性大腸菌感染症	1	9	0～4歳女	須崎
		1	10	0～4歳男	
		1	11	20歳代女	
		1	12	0～4歳女	
		1	13	0～4歳女	
		1	14	0～4歳男	
		1	15	0～4歳女	
		1	16	0～4歳男	
		1	17	0～4歳男	
		1	18	0～4歳女	
		1	19	0～4歳女	
		1	20	0～4歳女	
		1	21	0～4歳男	
		1	22	0～4歳男	
		1	23	0～4歳男	
		1	24	0～4歳女	
		1	25	5～9歳男	
		1	26	0～4歳男	
		1	27	0～4歳女	
		1	28	0～4歳男	
		1	29	50歳代女	
		1	30	30歳代男	
		1	31	30歳代男	
1	32	0～4歳女			
1	33	30歳代女			
1	34	0～4歳女			
4類	重症熱性血小板減少症候群	1	7	70歳代男	幡多

腸管出血性大腸菌感染症 O26 の集団での感染事例が認められました(食中毒は否定されています)。腸管出血性大腸菌感染症は、O26 や O157 をはじめとするベロ毒素を産生する大腸菌による感染症です。

ヒトからヒトへの二次感染を防ぐために個人で出来る予防策としては

- ・トイレの後、調理・食事の前に石鹸と流水で十分に手を洗う。
 - ・患者の介護をする方は、使い捨て手袋を使うなどして、便に直接触れないようにする。
 - ・患者さんの便で汚れた衣類は、便を取り除き、他の家族のものとは別に洗濯し、消毒が必要であれば、約 500 から 1000ppm (5%濃度なら 50 から 100 倍) に薄めた塩素系消毒薬 (次亜塩素酸ナトリウム) に 30 分以上つけ置きした後、普通に洗濯します。
 - ・下痢症状のあるときは入浴の順番は最後にし、シャワーを使う。
 - ・下痢症状のあるときは、集団で使用するプール等の使用は控える。
- 等があります。

厚生労働省「腸管出血性大腸菌感染症 Q&A」

http://www1.mhlw.go.jp/o-157/o157q_a/index.html

国立感染症研究所「腸管出血性大腸菌感染症とは」

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/439-ehc-intro.html>

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
安芸	田野病院小児科	ノロウイルス感染症1例（1歳男）
中央東	あけぼのクリニック	マイコプラズマ肺炎1例（14歳）
	早明浦病院小児科	ぶどう球菌性熱傷様皮膚症候群で医大皮膚科に入院1例（1歳女）
	高知大学医学部附属病院小児科	ノロウイルス腸炎1例（11ヶ月男）
	野市中央病院小児科	病原性大腸菌0-25腸炎1例（2歳女：ペロ毒素陰性）
高知市	けら小児科・アレルギー科	マイコプラズマ肺炎7例（3歳男、11歳男、11歳女2人、14歳男、44歳男、70歳女）
		アデノウイルス感染症5例（0歳男、3歳女2人、5歳男女）
		カンピロバクター腸炎1例（9歳女）
		病原性大腸菌0-1腸炎1例（30歳女）
		ノロウイルス腸炎4例（1歳男3人、1歳女）
	細木病院小児科	ノロウイルス2例（1歳男女）
	福井小児科・内科・循環器科	アデノウイルス感染症5例（4歳男、5歳女、6歳男、6歳女2人）
		RSウイルス感染症1例（2歳女）
		溶連菌感染症とアデノウイルス感染症の同時感染1例（6歳男）
		伝染性紅斑（りんご病）2例（3歳女、8歳男）
		溶連菌感染症2例
	三愛病院小児科	アデノウイルス感染症3例（4歳男2人、15歳男）
		マイコプラズマ気管支炎1例（4歳男）
	高知医療センター小児科	RSウイルス2例（2ヶ月女、1歳男）
アデノウイルス2例（4歳男2人）		
A群レンサ球菌1例（2歳男）		
中央西	くぼたこどもクリニック	口唇ヘルペス1例（5歳男）
	石黒小児科	単純ヘルペス1例（15歳女）
	日高クリニック	アデノウイルス扁桃炎4例（5歳男3人、6歳男） マイコプラズマ肺炎1例（9歳女）
須崎	もりはた小児科	滲出性扁桃炎（アデノ）1例（9歳女）
		カンピロバクター腸炎1例（9歳男）
		マイコプラズマ肺炎2例（2歳女、6歳男）
		百日咳2例（1歳男、5歳女※37週検出）
幡多	こいけクリニック	マイコプラズマ肺炎4例（1歳女、4歳男、6歳女、8歳女）
	幡多けんみん病院小児科	ヒトメタニューモウイルス感染症陽性1例（1歳男）
	さたけ小児科	マイコプラズマ1例（13歳女） アデノウイルス1例（5歳女）

★全国情報
麻疹

麻疹（はしか）の流行が問題となっています。

麻疹は、発熱・咳・鼻水といった風邪のような症状の後、高熱と発疹が現れ、空気感染、飛沫感染、接触感染により感染し、その感染力は非常に強いと言われています。

発熱等の麻疹が疑われる症状が現れた場合は、医療機関に直ぐに受診をするのではなく、必ず事前にかかりつけ医等に電話連絡でその旨を伝え、指示に従い、医療機関を受診しましょう。

- ・麻疹は予防接種が有効です。定期接種は対象年齢になったら確実に2回受けましょう。
- ・麻疹は感染力が非常に強い感染症です。自分が感染しないためだけでなく、周りの人に感染を広げないためにも予防接種は重要です。予防接種を受けてない方や、予防接種が1回だった年代の方（概ね26歳以上の方）については十分な免疫を獲得してない可能性があることから、特に注意が必要です。
- ・妊娠中に麻疹に罹患すると、一般に重症化することが知られています。妊娠中の接種はできませんが、これから妊娠を計画されている方は予防接種を受けることをご検討ください。
- ・麻疹流行時には外出を避け、人込みに近づかないようにするなど注意が必要です。特に感染者が多く報告されているところへ出かける際は注意しましょう。

○高知県健康対策課 麻疹・風しんに関する情報

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/kansen-yobousessyumashin.html>

○厚生労働省 麻疹（はしか）に関するQ&A

<http://www.mhlw.go.jp/qa/kenkou/hashika/index.html>

○国立感染症研究所感染症疫学センター 麻疹に関する緊急情報(2016年8月25日)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/655-disease-based/ma/measles/idsc/6709-20160825.html>

第33週以降、全国各地で麻疹の患者報告が相次いでおり、今年全国の麻疹患者報告数は第37週時点※で130名と、昨年1年間の報告数35名を大きく超えています。

37週の報告数は21名となっており、引き続き、関西、関東圏からの報告が相次いでいます。それぞれの報告数は、大阪府11名、和歌山県2名、兵庫県1名、奈良県1名、東京都3名、神奈川県2名、埼玉県1名となっています。

国立感染症研究所麻疹情報（速報）は次のとおり発信されています。

○国立感染症研究所 感染症発生動向調査（IDWR）麻疹第37週速報

<http://www0.nih.go.jp/niid/idsc/idwr/diseases/measles/measles2016/meas16-37.pdf>

○国立感染症研究所 麻疹ウイルス分離・検出速報

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-measles.html>

※報告数は感染症発生動向調査システムWISH公開データ（週報）を掲載しているため、速報として公開されている報告数とは一致しない場合があります。

■ジカウイルス感染症の定義と発生届について

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の施行令が一部改正され、平成28年2月15日からジカウイルス感染症が全数報告の対象となる四類感染症となりました。

診断した医師は直ちに最寄りの保健所又は福祉保健所に届け出ることをお願いします。

●国立感染症研究所 ジカウイルス感染症関連情報

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/>

●厚生労働省検疫所 海外感染症情報

<http://www.forth.go.jp/index.html>

●外務省 海外安全ホームページ

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

●国立国際医療研究センター ジカ熱/ジカウイルス感染症 2016年9月6日更新

<http://www.dcc-ncgm.info/topic/topic-ジカウイルス感染症/>

●ジカウイルス感染症 定義 (厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/01-04-44.html>

●ジカウイルス感染症 発生届様式 (PDF)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/pdf/01-04-44b.pdf>

●ジカウイルス感染症について (厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html>

●政府広報オンライン 何が危ない? どう防ぐ? ジカウイルス感染症 (ジカ熱) 予防のポイント

<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201605/2.html>

●外務省海外安全ホームページ マレーシアにおけるジカウイルス感染症の発生 2016年9月4日更新

http://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcspotinfo_2016C240.html

第36号 (9月5日～9月11日)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核377例

3類感染症：コレラ1例、細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症191例、腸チフス1例

4類感染症：E型肝炎7例、A型肝炎3例、チクングニア熱2例、つつが虫病2例、デング熱7例、日本紅斑熱9例、マラリア4例、レジオネラ症40例、レプトスピラ症2例

5類感染症：アメーバ赤痢17例、ウイルス性肝炎5例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症22例、急性脳炎9例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症9例、後天性免疫不全症候群14例、ジアルジア症1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症6例、侵襲性髄膜炎菌感染症2例、侵襲性肺炎球菌感染症13例、梅毒68例、播種性クリプトコックス症1例、破傷風4例、風しん2例、麻しん23例

報告遅れ：E型肝炎2例、回帰熱1例、重症熱性血小板減少症候群1例、日本紅斑熱1例、レジオネラ症13例、レプトスピラ症4例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症13例、急性脳炎7例、クリプトスポリジウム症1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症5例、水痘 (入院例に限る) 4例、梅毒47例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、風しん1例、麻しん17例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第38週 平成28年9月19日(月)～平成28年9月25日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第38週							計	前週	全国(37週)	高知県(38週末累計)		全国(37週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H28/1/4～H28/9/25				H28/1/4～H28/9/18			
インフルエンザ	インフルエンザ								()	()	458 (0.09)	14,927 (310.98)	1,582,854 (321.00)			
小児科	咽頭結膜熱		1	14	1	3	2	21 (0.70)	58 (1.93)	1,175 (0.37)	401 (13.37)	51,814 (16.45)				
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			20	1		1	22 (0.73)	23 (0.77)	5,031 (1.60)	1,975 (65.83)	277,191 (88.03)				
	感染性胃腸炎	6	15	43		1	8	73 (2.43)	83 (2.77)	11,641 (3.71)	5,068 (168.93)	641,512 (203.72)				
	水痘		2	2			4	8 (0.27)	11 (0.37)	837 (0.27)	307 (10.23)	44,189 (14.03)				
	手足口病			3				3 (0.10)	4 (0.13)	2,498 (0.80)	267 (8.90)	32,062 (10.18)				
	伝染性紅斑	3	1	8			1	13 (0.43)	6 (0.20)	416 (0.13)	268 (8.93)	45,946 (14.59)				
	突発性発疹		1	4				6 (0.20)	14 (0.47)	1,715 (0.55)	386 (12.87)	56,315 (17.88)				
	百日咳				1	1		2 (0.07)	4 (0.13)	69 (0.02)	84 (2.80)	2,205 (0.70)				
	ヘルパンギーナ			1	2		1	4 (0.13)	5 (0.17)	4,482 (1.43)	716 (23.87)	112,576 (35.75)				
	流行性耳下腺炎		4	7				5	16 (0.53)	22 (0.73)	3,366 (1.07)	690 (23.00)	111,154 (35.30)			
RSウイルス感染症	2	1	10	3	1		17 (0.57)	15 (0.50)	4,558 (1.45)	682 (22.73)	42,291 (13.43)					
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	15 (0.02)	()	298 (0.43)				
	流行性角結膜炎			2				2 (0.67)	1 (0.33)	657 (0.96)	16 (5.33)	18,108 (26.24)				
基幹	細菌性髄膜炎							()	1 (0.13)	7 (0.01)	9 (1.13)	351 (0.74)				
	無菌性髄膜炎			2				2 (0.25)	()	40 (0.08)	33 (4.13)	986 (2.08)				
	マイコプラズマ肺炎			3			3	6 (0.75)	9 (1.13)	449 (0.95)	216 (27.00)	11,215 (23.71)				
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			1				1 (0.13)	()	8 (0.02)	27 (3.38)	249 (0.53)				
	感染性胃腸炎							()	()	5 (0.01)	234 (29.25)	5,002 (10.58)				
計 (小児科定点当たり人数)		11 (5.50)	25 (3.56)	120 (10.18)	8 (2.66)	11 (5.50)	21 (3.60)	196 (6.16)		37,427	26,306 (672.44)	3,036,318				
前週 (小児科定点当たり人数)		8 (4.00)	51 (7.29)	114 (10.00)	42 (14.00)	13 (6.50)	28 (4.20)		256 (8.17)							

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関)定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第38週							計	前週	全国(37週)	高知県(38週末累計)		全国(37週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H28/1/4～H28/9/25				H28/1/4～H28/9/18			
インフルエンザ	インフルエンザ										0.09	310.98	321.00			
小児科	咽頭結膜熱		0.14	1.27	0.33	1.50	0.40	0.70	1.93	0.37	13.37	16.45				
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			1.82	0.33		0.20	0.73	0.77	1.60	65.83	88.03				
	感染性胃腸炎	3.00	2.14	3.91		0.50	1.60	2.43	2.77	3.71	168.93	203.72				
	水痘		0.29	0.18			2.00	0.27	0.37	0.27	10.23	14.03				
	手足口病			0.27				0.10	0.13	0.80	8.90	10.18				
	伝染性紅斑	1.50	0.14	0.73		0.50		0.43	0.20	0.13	8.93	14.59				
	突発性発疹		0.14	0.36				0.20	0.47	0.55	12.87	17.88				
	百日咳				0.33	0.50		0.07	0.13	0.02	2.80	0.70				
	ヘルパンギーナ			0.09	0.67		0.20	0.13	0.17	1.43	23.87	35.75				
	流行性耳下腺炎		0.57	0.64			1.00	0.53	0.73	1.07	23.00	35.30				
RSウイルス感染症	1.00	0.14	0.91	1.00	0.50		0.57	0.50	1.45	22.73	13.43					
眼科	急性出血性結膜炎									0.02		0.43				
	流行性角結膜炎			2.00				0.67	0.33	0.96	5.33	26.24				
基幹	細菌性髄膜炎								0.13	0.01	1.13	0.74				
	無菌性髄膜炎			0.40				0.25		0.08	4.13	2.08				
	マイコプラズマ肺炎			0.60			3.00	0.75	1.13	0.95	27.00	23.71				
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			0.20				0.13		0.02	3.38	0.53				
	感染性胃腸炎									0.01	29.25	10.58				
計 (小児科定点当たり人数)		5.50	3.56	10.18	2.66	5.50	3.60	6.16		672.44						
前週 (小児科定点当たり人数)		4.00	7.29	10.00	14.00	6.50	4.20		8.17							

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869